

10月のデキゴト

10月20日(日)開催 いずみ自然塾「市民の森の保全活動」

いずみ自然塾では、「身近にある貴重な自然を未来に残すために、今、私たちは何をすべきか。」を考えてもらうため、毎月、坂戸市及び近隣の市や町の自然観察や環境保全の取り組みについて学習しています。

今回は、お隣の鶴ヶ島市さんにお邪魔させていただきました。鶴ヶ島市には、市民の森が5ヶ所ありますが、この市民の森の1つである太田ヶ谷の森は、圏央道鶴ヶ島ICの開設に伴う周辺開発により移転することとなった、埼玉県農業経営大学校跡地約13万㎡を「鶴ヶ島市グリーンパーク」として埼玉県が整備し、3年前に鶴ヶ島市が譲り受け市民の森として管理しています。

鶴ヶ島市では、この広大な市民の森の自然を後世に残すため、グランドワーク（「地域」「企業」「行政」のパートナーシップによる環境改善活動）により、住民が主体となり環境団体、企業及び行政（鶴ヶ島市）が協力して管理、運営を行っています。

具体的取り組みとしては、生来の生態系を可能な限り残すことを基本とし、森植樹計画（14ゾーン）を定め、その管理及び運営については、参加メンバーによる月1回の運営会議の意見を元に実施しており、多くの市民に利用してもらい、関心を持ってもらえる施設とするには。自然観察会等をとおして、環境学習の場として活用していただけるための施設とするには等を考え管理、運営を行っているとのことです。

また、施設内では、現在、竹林エリアにおけるタケノコ掘り体験、植栽エリアでの市内の小学生を対象とした植栽体験、ホタル復活エリアでの活動等行っており、今後も色々な意見を取り入れ、より多くの方々に利用していただける充実した施設としていきたいとのことです。

参加者からは、住民や企業、NPO等の環境団体との共同による環境保全活動について、坂戸市においても参考になるとともに、今後の太田ヶ谷の森の取り組みを見守りたいきたいとの声をいただきました。

記 環境学館いずみ職員 N.H

